

“奈緒ちゃんシリーズ” 最新作

やぶくらくなぬい

～奈緒ちゃんと家族の35年～

そばにいるときも、いないときも、
家族の物語はつづいています。

2024年 **2/11**(日)

14:00 (開場13:30)※16:30終了予定

廿日市商工保健会館 交流プラザ 多目的ホール

(広島県廿日市市本町5-1)

障がいのある奈緒ちゃんと家族の日々。カメラは35年間回りつづけた。

〈ヒューマンドキュメンタリー映画〉 伊勢真一 監督作品

2017年/カラー/1時間50分/製作:いせフィルム <http://www.isefilm.com>

鑑賞料

全席自由

500円(税込)

※未就学児の入場はご遠慮ください。
※託児はありませんのでご注意ください。
※字幕・副音声あり

共催：廿日市市障害者団体連絡会
全国障害者問題研究会廿日市サークル
社会福祉法人 くさのみ福祉会
後援：廿日市市
廿日市市教育委員会
廿日市市社会福祉協議会

「ケンカしちゃいけないよ。やさしくなあに・・・って言わなくちゃ。」

まるで呪文みたいな不思議な「奈緒ちゃん語」。世界中のみんなに、「やさしくなあに」が届きますように。

奈緒ちゃんに逢いに来ませんか？



『やさしくなあに』は、
家族の映画です。

演出：伊勢 真一

『やさしくなあに』は、家族の映画です。

障がいをもちながらも元気に生きる奈緒ちゃんを撮りつづけて35年、そこに写っていたのは“家族”でした。ひたむきに生きる奈緒ちゃん一家の暮らしの日々…。映画を観た人はきっと、自分自身の家族との日々を思い返すでしょう。

主役は姪っ子の奈緒ちゃんとその家族。テーマ曲「Home, Sweet Home」を歌うのは姉、西村信子、チラシの絵は亡き母、木島浜子、亡き父、伊勢長之助（記録映画編集者）と関わりがあるスタッフもいます。題字は伊勢真一…。

この映画は、私にとっても家族の映画です。



今どきの家庭での会話の無さを恥じています。自分が疲れていれば黙る、気に入らなければ黙る、家庭の暖かさは会話から生まれることを認識いたしました。

(50代 女性)

共生への知恵と喜びがいっぱい詰まっています。「あいつよりは・・・」と思わない世界は、こんなに素敵なのだ、と教えてくれます。

(60代 男性)

人との関わりを生かせる人こそが一番美しく生きているのだなあ、と感じました。

(30代 男性)

奈緒ちゃんのイノセントさとユーモアがまわりを勇気づけてくれる。励ましてくれる。奈緒ちゃんはしっかりと生きている、と思った。

(30代 女性)



伊勢 真一（いせ しんいち）

ドキュメンタリー映像作家。1949年東京都生まれ。奈緒ちゃんの叔父にあたる。長編ドキュメンタリー映画のデビュー作は、8才の奈緒ちゃんとその家族に寄り添い12年間を記録した映画『奈緒ちゃん』（1995年）。この作品で、毎日映画コンクール記録映画賞グランプリ他多数を受賞。その後も長きにわたり撮影を続け「奈緒ちゃんシリーズ」として『びぐれっと』（2002年）、『ありがとう』（2006年）を製作。2017年の本作はシリーズ第4弾となる。他にもヒューマンドキュメンタリーの作品を多数製作。

《会場アクセス》



※お申し込みは、お電話、FAXまたはメールでお申し込みください。当日参加も可能ですが、観覧席数準備の関係上、できるだけ事前申し込みにご協力をお願いします。

※駐車場に限りがあるため、ご来場の際は、公共交通機関をご利用ください。

【お申込み・お問合せ】

FAX/(0829)31-2900（くさのみ作業所）

E-mail/kusanomi20@kusanomi.org

☎(0829)31-2800（担当：小出、矢部）

お名前	所属（個人 or 団体名等）	連絡先（電話・メール等）
(フリガナ)		
(フリガナ)		
(フリガナ)		

※申し込み〆切 2024年1月31日（水）